

第1回 福知山市企業交流プラザあり方検討会議事録

【日 時】 令和5年8月21日(月)15:30～17:15

【場 所】 福知山市企業交流プラザ

【出席者】 委員6名、アドバイザー1名、事務局6名 詳細は名簿のとおり

1 開 会

2 開会挨拶

3 委員紹介 委員名簿

4 検討会設置要綱及び委員長の選出 要綱

5 議事

(1) 福知山市企業交流プラザの経緯と現状

- ・これまでの経緯と現状資料1
- ・長田野工業団地利活用増進計画について資料2
- ・一般社団法人長田野工業センターより説明長田野工業センター様提供資料
- ・エネルギー・環境基本計画(抜粋)について資料3
- ・物件見学資料4

(2) 意見交換

(3) その他

6 閉 会

1 開会

2 開会挨拶

▶渡邊副市長

- ・企業交流プラザは昭和49年に建設、長田野工業団地立地企業の中核拠点である。
- ・立地企業間の交流や企業の雇用のイベントなど多様に活用されている。
- ・築約50年と老朽化しており、あり方検討会では施設更新について、機能、規模、場所などの方向性を御議論いただきたい。
- ・委員はそれぞれ専門的な立場から、企業間の交流、未来に向けた環境エネルギー分野への利活用、経済的な合理性などを幅広く検討いただきたい。

3 委員紹介

4 検討会設置要綱及び委員長の選出

▶事務局

- ・要綱第1条により、福知山市企業交流プラザの機能や規模などの施設更新の方向性を検討するために企業交流プラザあり方検討会を設置する。
- ・要綱第2条により、検討会は福知山市企業交流プラザの機能、規模などの施設更新の方向性の検討に関する事項、施設更新に係る基礎調査に関する事項などについて検討、令和5年度から令和6年度にかけて複数回実施、方向性をまとめた上で、その結果を市長に提言することとする。スケジュールは進捗状況により変更が生ずる。
- ・要綱第6条により委員長を選出する。
- ・事務局一任とのことで、福知山公立大学地域経営学部准教授の佐藤委員を推薦する。
- ・(委員一同：異議なし)佐藤先生を委員長とし、議事進行をお願いする。

5 議事

(1)福知山市企業交流プラザの経緯と現状

▶委員長

- ・次第に沿って議事を進行する。
- ・福知山市企業交流プラザの経緯と現状について福知山市及び長田野工業センターより説明をお願いする。

▶事務局

●これまでの経緯と現状

- ・企業交流プラザについての概要を資料1に沿って説明する。
- ・敷地面積10,103㎡、建築面積949㎡、延床面積1,605㎡、建築年月1974年3月で建築から約50年が経過している。
- ・施設は展示ホール、会議室、事務室があり、駐車場は約80台(長田野工業センターホームページより)、標高約70mの高台にある。
- ・プラザ及び周辺施設等の沿革については、長田野工業団地の工場敷地が昭和45年2月に分譲開始、昭和47年に一部企業が操業開始、昭和49年に京都府長田野会館、現在の企業交流プラザが竣工、昭和62年に福知山ICが完成、平成元年には長田野工業団地の工場用地が完売した。
- ・平成12年に京都府長田野会館が府市にて改修され福知山市へ移管、福知山市企業交流プラザに名称が変更された。
- ・改修から20年以上経過している。
- ・施設建設当時の様子については、噴水があり、食堂や喫茶スペースがあったと聞いている。
- ・用途地域は工業専用地域で、基本的に商業施設は建設できない。
- ・周辺施設は、石原駅まで自動車で5分、地域公民館、雇用面でも重要な工業高校、福知山IC、

交番、高速バスのバス停がある。

- ・団地内の行政関連施設はグラウンド、テニスコート、斎場、体育館、公園、府ヘリポートがある。

●長田野工業団地利活用増進計画について

- ・長田野工業センター利活用増進計画について、資料2により説明する。
- ・平成30年6月に策定された長田野工業団地利活用増進計画は、地域環境との共生、企業活動が活性化する操業環境、働きやすい就労環境の3つの基本コンセプトで構成されている。
- ・計画の中で、『「企業交流プラザのあり方検討委員会」等による本施設の更新を前提として、機能充実など、働きやすい環境づくりのための利便施設のあり方の検討を行う』とされている。

●一般社団法人長田野工業センターより説明

▶長田野工業センター

- ・建築から約50年が経過し、外観や内装の劣化や雨漏りが見られ、躯体の腐食が進み、コンクリート部分でも(鉄筋等が)むき出しになっている部分がある。
- ・昭和49年の設置であり、新耐震基準以前に建設されている。
- ・高木が伸び、雑草が繁茂している。
- ・施設の利用状況について (H30年～R2)

ホー ル：センター利用年70回 (月1回の工場長会、さまざまな分野の講演会など)、部会活動年50回、企業面接会年5回程度、一般利用年100回程度である。

会 議 室：センター利用年20回 (部会活動の幹事会や講師の控室など)、一般利用年85回で、近傍類似施設より利用率は低い。

展示ホール：昔は食堂として利用されていたが、今は撤退され、信用保証協会が賃借されている。

常設展示室：外部の活用はほとんどされていない。

- ・テナント入2件 (信用保証協会、日新地域公民館) は今年度末までの入居予定である。京都銀行は撤退されたが、ATMの設置はある。
- ・記念庭園、会館庭園があり、会館庭園は長田野工業センターによるイベント「地域ふれあい広場」会場として利用しているが、記念庭園は老朽化や高木や雑草の繁茂により設置当初の機能は十分果たされていない。
- ・施設の位置は長田野工業団地の各企業から車で5分程度であり、企業間の相互連携や管理業務が容易である。また駐車場は西側70台、東側30台、合計100台程度の収容が可能で、大規模な研修にも対応できる。
- ・センターとしては、企業相互連携のため、大ホールと会議室3室程度、70台程度の駐車場、事

務室と書庫等は最低限必要である。

- ・付加機能は昨今の長田野工業団地BCP策定の経緯からも、災害拠点として福知山市から認定を受け、備蓄保管等を進めるなどし、また地域公民館と連携して避難施設として整備、理由としても理解を得やすいと考える。
- ・設置エリアについて、工業団地内での設置が望ましい。

●エネルギー・環境基本計画(抜粋)について

▶事務局

- ・本年3月議会の議決を経た本市のエネルギー環境基本計画は、福知山市のエネルギー政策の総合的な体系を示しており、本計画での工業団地の位置付けを中心に説明する。
- ・P56市内企業の脱炭素化移行の支援、長田野工業団地立地企業と市内サプライチェーンなど地域産業全体の脱炭素化の促進について記載している。
- ・P57長田野工業団地立地企業の内一定規模以上の企業への再エネ関連設備導入支援等により、産業部門の脱炭素化の加速など、脱炭素型産業のクラスター化などを推進することとしている。
- ・P70長田野工業団地におけるエネルギー利用技術の高度化に向けた脱炭素型企業の集積やイノベーションの創出の重要性を示している。
- ・P73、P75本市現状は基準年2013年で140万トンのCO₂排出、産業部門は市の排出量に占める割合が大きく、国が掲げる目標と踏まえ、2050年に0にとするための取組みが必要である。
- ・産業部門の中の製造業では、平成30年度データで74万トン弱を排出、産業部門の内の約3分の1が長田野工業団地から排出されていると推定される。
- ・P89産業部門の具体案で、中期的な目標として長田野工業団地41社への太陽光発電設備導入を、新たに3割導入した場合、建物と駐車場で見込まれる削減量は約14,000トンと想定している。
- ・P101中期目標におけるCO₂削減見通を、2018年の実績に対して産業部門全体では約30パーセントの削減としている。
- ・プラザの位置付けを勘案し、脱炭素を象徴するような機能も織り込めるかについても検討いただきたい。

●物件見学

▶事務局

(2)意見交換、(3)その他

▶委員長

- ・ここまでのところで事実確認等を含めた質疑応答を行い、それを踏まえて意見交換を進める。
- ・まず、これまでの経緯、長田野工業団地利活用増進計画、長田野工業センターによる現状や利

活用方法、エネルギー・環境基本計画における長田野工業団地の位置付けについて説明いただいた中で質問はないか。(質問なし)

▶委員長

- ・検討する上では、「どのような役割を誰のために果たす施設とするのか」、「どこに、どの程度の規模の、どのような設備を備えた施設で、どれくらいの運用期間をめざすのか」などの検討が必要である。
- ・「今後このセンターがどうあって欲しい」、「こういったかたちで使ってみたい」、また「こうした議論が必要ではないか」という論点での意見を、委員よりいただきたい。

▶委員

- ・会場と会議室のみ使用したことがある。
- ・現状の規模はオーバースペックである。
- ・税金を投入する場合は(設置者は検討会で検討)、無駄なく目的を絞って作るべきである。
- ・企業間の相互連携推進に目的を絞り、オーバースペックでないものを設置する必要がある。

▶委員

- ・長田野工業団地立地企業の利用が多く、目的としては企業間の交流が妥当と考える。
- ・利用実績は想像以上に多く、一般利用も年100回以上と実績は十分である。
- ・長田野工業団地の地域経済効果は絶大であり、出荷額、従業員数とも過去最大を記録、従業員数も7000人余りということで、これは当然に長田野工業団地を中心にした施設で問題ないと考える。
- ・長田野工業団地に関係のある企業が入居するのもよい。
- ・環境基本計画の推進と、交流プラザがどういった役割を果たしていくべきかをあわせて議論することは、適当かどうか判断できない。

▶委員

- ・立地企業にどんな価値を提供するのが重要と考える。
- ・現在の施設は、一般利用者も有効に使用されている。
- ・エネルギー面で、どのような施設にしていくかという検討も必要である。

▶委員

- ・農業者は気温の上昇を非常に懸念しており、脱炭素は避けては通れない。
- ・施設は20年どころかこの先60年は存続すると考えて機能や設備の検討が必要である。
- ・長田野工業団地は「公害の少ない工業団地」として完成したと聞いており、施設は“ゼロエネ

ルギー”に近いものとし、シンボル性のあるものとしてもよい。

- ・「防災拠点」になるポテンシャルがあり、防災拠点としての機能があってもよい。
- ・長田野工業団地立地企業向けの機能が最優先として、そこにメッセージ性を持たせることも検討してはどうか。
- ・(岡山県)西粟倉村は人口1,500人と小さいながらも脱炭素化を進め、他市町からの視察に繋がっている。本件も視察されるような施設としての検討することも重要である。

▶アドバイザー

- ・まずは立地企業の意向を反映させることが当然と考える。
- ・府としては、「子育て環境日本一」を掲げており、子育てに資する機能を付加することがあってもよいと考える。

▶委員長

- ・「誰のために」とは、当然、立地企業とその従業員の方のためで、必要な場所であることは間違いない。
- ・それを前提として、何か新しいものを生み出す創造的な拠点づくりの場として、新しい価値をつくり上げていくような機能を検討したい。
- ・福知山市には公立大や工芸繊維大学、周辺には舞鶴高専などもあるので、そうした教育機関等を絡めながら進めていければと考える。
- ・当該用地の利便性を活かし、例えばフリーランスの方が働けるような場所としてもよいのではないか。
- ・エネルギー・環境基本計画中には「産業クラスター」とあり、立地企業に加えて(エネルギー分野に長けた、または取り組んでいる企業の)サテライトオフィスとして企業を誘致することも考えられる。
- ・委員より「視察されるような施設に」というお話があり、付加価値、規模、環境配慮などを検討し、シンボリックな施設になるとよい。
- ・付加価値の検討において、従業員のニーズ把握も必要ではないか。

▶委員

- ・ジェンダーギャップの視点も必要と考える。
- ・女性が働きやすい環境が整えば、女性就業人口も増えることになる。

▶委員

- ・付加機能については、長田野工業団地の従業員に限るものでなくともよい。

- ・地域住民の方にもしっかりと使っていただけるよう、住民の方の思いやニーズも拾い上げられるとよい。

- ▶委員

- ・建替えを前提として意見を出せばよいのか。

- ▶委員長

- ・建替えが前提となろう。

- ▶委員

- ・建替時期はいつ頃を想定されるか。

- ▶事務局

- ・令和5年度及び6年度でこの検討会を実施し、市へ提言をいただきたい。

6 閉会